

## 米國ギター協會に就て

American Guitar Society

D. Kennedy

私は此のソサエターの會員であるので此處でギターの教師生徒及び有志者等に依つて成つて居る、同會現今の活動振りを日本のギターリストに知らせ度いと思つて、少し書いて見る事にした。此の協會は丁度大震災の年月（西曆一九二三年）米國に組織された同國に於てギター（の爲の只一つの會であり、米國近來の不景氣にも關らず今日迄存在して居て、會員は米國は言ふ迄もなく濠洲、英國、加奈陀、日本其他に有して居る。此の會の目的はスペイン風のギターをスペイン風に弾く（ピツクでなく指で）可能性を極力世に知らせ出來得る限り此の樂器に潜んで居る美を演奏又は機關雜誌 *The Serenader* を以て宣傳する事である。毎年ギターリストに興味深く又絶版の爲め手に入難き樂譜を集めアルバムに印刷し無代價にて會員等に供給する事を一つの業として居る。又同會に

ては余り世間に知られて居らぬ作曲家の作を一般に紹會せんと努力して居る。是迄發行されたものを申せばスペイン、メキシコ、ロシア、シュューベルト、ベートベン等のアルバムがある。本年一月中にオペラ曲のアルバムを發行すると發表した。同會は其の外に樂譜を會員等に貸與するのみならず講演兼リサイタルを時々催し又立派なコンサートも開く。其れには會員は友人を伴つて來る事を歓迎して居る。右講演兼リサイタルの例を擧ぐれば最近催された（昨年十月）墺國ウイーン市にて五十一年前に生れたギターリスト及び作曲家ハンリツヒ・ポール氏 *Heinrich Bohr* の講演の後彼のギター作曲が色々演奏された。其の以前六月大ホールを利用してポヘミヤ人の作曲のみを演奏した。斯様なりサイタルにはギター獨奏ばかりでなくギターと他の樂器フルート又チェロ又は歌等の

一重奏或は二重奏等を行ひ、そしてギターと他の楽器との合奏の美を公衆に知らせて居る。其の以前にはコスト作曲のみ又はカルリ、又はカルカツンのみのリサイタルを催した。又年一回會員の晩餐會を必らず行ふ。會員連が此の會のコンサートに深き興味を抱き居る一つの證據には遙々百四十哩の遠くから旅して列席する者もある。ヂャズ流行の影響として現今にては種々の純スペイン式ギターの擬物又は變つた弾方（ピツクの如き）あるに鑑みソール、タルレガ其他純ギター大家に書かれた曲を奏するに彼等が使つた純スペイン弾方を世間に使用させる様大いに努力して居る。又演奏會には勿論ギター獨奏に最も重きを置く事を常として居るがギターアンサンブル演奏も時々プログラム中に挟む事がある。斯様なアンサンブルの場合には多數のギター（八箇位）を用ふ。其れにマンドチェロ・マンドバス等を加へる。此の會で喜ばしき現象は演奏會にメンバーの缺席率の非常に低い事である。又會は各國の新聞雜誌に現れるギターに對する記事各國のギター演奏會のプログラム等を集め其等を大アルバムに貼りつけ會員の参考材料として保存してある。又古からのギタリスト及びギター作曲家の寫眞を澤山集めて居る。本年の大コンサートには英國作曲家の作を専ら演奏する事の準備をして居る。此のアメリカンギター

協會の會長は日本のギタリスト等に良く其の名を知られて居るピツクフォード夫人であつて會の事務所は

American Guitar Society

2280 West 23rd Street

Los Angeles, Cal. U. S. A.

である。

日本にもギタリストが相當に居られるのだから日本ギター協會とでも言ふ様な團體が出来れば甚だ喜ばしき事であると思つて居る。

### アルモニア案内

▽讓度しの部

『マンドリンギター研究』 昭和六、七、八年度入用價格御知らせを乞ふ。姓名在刊行部

『アルモニア案内』 近來可なり多くなり、無制限に出す譯に行きませんので、今後案内欄を確實にする様、一回六十字まで金二十錢、姓名在刊行部は三十錢といたします。御諒承の程。原稿に二錢切手同額封入申込み下さい。

此小廣告に依つて誌友相互の不用品や入用品が整理され、ばよいと思ひます。續々御利用下さい。

## 會つて來ました

在横濱 D. K. medy

## Pujol と Bickford 夫人に

私は本年七月日本を立ち八月一日巴里に着きました。或る日 Rue Pigale の J. Rowies 楽器店へ樂譜を求めに行きました時、其處の店員に巴里にはプヂョールと言ふギターの先生が居る筈だが、彼の住所を知らぬかと尋ねました處、プヂョール氏は只今次の部屋に居られるとの女店員の返事に驚きました。其れなら彼に會へるか尋ねましたら、彼女は次の室へ行きましたが間もなく戻つて來て、宜敷い此方へ御遣入り下さいと言つて、其の室へ案内して呉れました。其の室は店主 Rowie 氏の事務室でロウイ氏とプヂョール氏夫妻と三人居りました。プヂョール氏に日本に於てのギター熱を知らせました處彼は非常に喜びました。

店主ロウイ氏は、五十餘りの紳士で、セロは弾けるがギターは奏けぬと申しました。此の事務所は巴里のギターリストの集會場だと言ひました。事務室の壁に各國のギターリストの寫眞が四五十吊つてあるのを見て成る程

と思ひました。

プヂョール氏は此の雜誌に掲げてある寫眞より大分老けて見え(本年五十一才)頭髮も薄く成つて居られるが顔色良く實に温厚な紳士であります。プヂョール夫人は彼の有名な西班牙のフラメンコ、ギターリスト(藝名 *Maria Cuerva*)であります。ピクターレコード *His Master's Voice* に同夫妻のギター二重奏が吹込まれて居ります。彼女は相當英語を話しますがプヂョール氏は話せぬ様でした。ロウイ氏も英語を話しました。

私はプヂョール氏に斯様に偶然逢ふのは實に自然の恵みであると言つて、是非一度彼のギターを聴かして貰いたいと申しましたら、彼はそれでは何か弾きませうと言はれたので實に夢の様でした。早速樂器屋の店にあつた Garcia 製のギターでターレガのキャブリチョ・アラブを弾いて聞かせて呉れました。其の時の愉快さは到底言語に盡せません。其の後でプヂョール夫人は同じ樂器を手にして *Granadina* の様なフラメンコ曲を弾いて聞かして呉れましたのは實に愉快で、又其の技巧に驚く外ありません。然し誠に不幸な事はプヂョール氏は、決してブラ

ツトホームでギターを弾く事は出来ないのです。其れと言ふのは彼は猛烈な *sage-fight* (アガリ) に襲はれるからです。私に弾いて聞かせて呉れた時も其の徴候がありました。

プデョール氏は此頃巴里の世界第一の圖書館で十六世紀のリユートの曲を捜し出し、それを今日のギターに適する様直して居ると言はれました。店主ロウイ氏の話ではプデョール氏の生徒は目下三十人程で、教授料は一時間六十法 (今の日本の爲替で換算すると八圓位、然し法は佛國の單位ですから相當高い教授料であります) の由です。色々談話の途中今南米の Ando 嬢と伊太利の Maria Rita Brondi 嬢の腕は大したものと言つて居りました。又タレガの弟子であつた他のギタリストの現在の所在を尋ねましたら Lobet は西班牙の Barcelona 市に居つて彼の弟は戦死したそうです。Sainz de la Maza もバルセロナに居るが Daniel Fortea はマドリッドに居るとの事です。

八日は暑中休暇でプデョール夫妻は其の夕刻地中海の Monte Carlo へ避暑に行く處で思ふ様に長く話を續けられなかつた事は何より残念でした。兎に角別れる前に今後私の方からは日本のギター、ニュースを送り、プデョール氏の方からは歐羅巴のギター、ニュースを通信で送

る事を約束しました。因に先に述べたギターは、西班牙バルセロナ市の名工 Garcia が三十年前作つた楽器で、プデョール氏が一人の生徒に求める事を勧める積りであつた楽器であるが、日本に良い楽器がないと言ふ困難な状態を述べて分けて頂き、日本へ持つて戻りました。

私は秩父丸が米國 Los Angeles から出帆する事を利用して歸りには同市へ立寄り Bickford 夫人に會ひました。従來は手紙の交換に限られて居つたのが、今回は直接面會の折を得たので、ホテルから電話を掛けました處、彼女は非常に喜んで早速 Mr. Bickford と同伴にて自動車で私のホテル迄迎ひに来て、彼等の宅へ連行き晚餐に預り、一方ならぬ待遇を受け愉快な半日を暮しました。彼女も日本のギター界の事に非常に興味を持ち、是非日本のギターリストに My best wishes を傳へて呉れと私に頼みました。

私は又今回巴里で非常にギターに興味を持つて居る日本人に出會ひました。同人の申すには日本から樂譜其の他音楽に關する物、又は如何なるものでも御入用の節は其の品の代價と郵送料を送金さへすれば親切に求めて郵送すると言つて居りますから、一寸此の折を利用して皆様に御知らせします。其の人は西村悟氏

S. Nishimura 14, Cité Falguiere Paris, 15 - France